第50回ASCセミナー

# コロナ禍とアフリカ

（ASCセミナーのHPにアクセスできます）

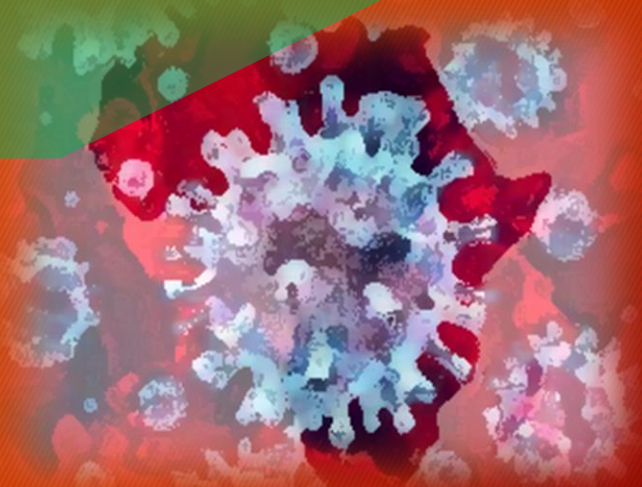
## 6/5 金

Zoom TV会議
17:40-19:10

現代アフリカ地域研究センターでは、2020年6月5日に第50回ASCセミナーを開催します。新型コロナウイルスは、公衆衛生上の脅威であるということを超えて、それぞれの国や地域社会のあり方や国際関係についてさまざまな側面から課題を表面化させ、今後の社会変革の方向性を示唆する機会をもたらしています。
今回は、ルワンダのプロテスタント人文・社会科学大学（PIASS）の佐々木和之先生と、ルワンダ、南アフリカ、ノルウェーに滞在する3人の東京外大生、そして日本をオンラインでつなぎ、新型コロナウイルス感染症のアフリカへの影響や現状、今後の展望などについて議論します。

- スピーカー:
  佐々木和之（PIASS上級講師）
  高尾タビタ（東京外国語大学国際社会学部アフリカ専攻/PIASS留学生）
  中村茉莉（東京外国語大学国際社会学部アフリカ専攻/在南アフリカ日本国大使館派遣員）
  森麻里永（東京外国語大学国際社会学部アフリカ専攻/トロムソ大学-ノルウェー北極大学留学生）
- 日時: 17:40～19:10（日本時間）
- 方法: Zoomを用いたTV会議（定員100人）

＊言語: 日本語
＊参加費: 無料
＊事前申込み必要（定員に達し次第、〆切）
https://forms.gle/HUuUmgAJR6unjf7NA



お問い合わせ先

東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター
住所：〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
研究講義棟4F401E2号室 TEL＆FAX：042-330-5540 e-mail：africanstudies-center@tufs.ac.jp

The 51st ASC Seminar

# アフリカ社会におけるCOVID-19への挑戦と応答：カメルーンとウガンダの事例報告

現代アフリカ地域研究センターは、日本アフリカ学会関東支部との共催により、Zoomウェビナーを開催します。

今回のセミナーでは、アフリカからゲストを招き、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行の社会的影響についてお話しいただきます。COVID-19は世界各地に広がり、人びとの健康と生命に多大な困難をもたらすとともに、生活のさまざまな側面に影響を及ぼしています。セミナーでは、人々がどのようにこの状況に対処し、応答しているかを、カメルーンとウガンダの事例報告から考えます。

セミナーでは、カメルーンからフォンゾッシ・エヴァリスト博士（ドゥアラ大学・民族植物学）、そしてウガンダからイアン・カルシガリラ氏（東京外国語大学博士課程・政治学）に参加いただきます。

フォンゾッシ博士は、新型コロナウイルス感染症拡大のなかで、伝統的医療の専門家が直面している困難と、植物由来の伝統的知識が果たしうる可能性について報告します。

カルシガリラ氏は、ウイルスが国家にもたらす政治的資源という側面に注目し、ウガンダ政府による治安維持戦略と、市民がそれをどのように受けとめ、理解しているかを分析します。

**7.16 木**

**Zoom 17:40 -19:10**

- 講演者：フォンゾッシ・フェドゥング・エヴァリスト（ドゥアラ大学上級講師、カメルーン）
  イアン・カルシガリラ（東京外国語大学博士課程、日本）
- 開催日：2020年7月16日（木）
- 時間：17時40分～19時10分（日本時間）
- 方法：Zoomウェビナーによるオンライン開催
  - 使用言語：英語
  - 参加費：無料
  - 事前申し込みが必要（7月13日〈月〉申し込み〆切）
    https://bit.ly/2NNkYBD
  - 共催：日本アフリカ学会関東支部

お問い合わせ先

**東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター**

住所：〒183-8534　東京都府中市朝日町3-11-1研究講義棟4F 401E2号室

TEL＆FAX：042-330-5540/ e-mail：africanstudies-center@tufs.ac.jp

The 51st ASC Seminar

©Fongnzossie Evariste

©Ian Karusigarira

# Challenges and Responses to COVID-19 pandemic in African societies: Case reports from Cameroon and Uganda

African Studies Center - TUFS (ASC-TUFS) will host the 51st ASC Seminar on Thursday July 16th, 2020. This is an online seminar jointly organized by Kanto branch of Japan Association for African Studies. Using the Zoom application, we invite two African scholars from Cameroon and Uganda.

The seminar focuses on the impact of COVID-19 pandemic on African societies. New viruses of COVID-19 are emerging as a significant challenge against people's health, lives, and affecting various aspects of humanities. In this seminar, we will focus on how formal and informal actors deal with and respond to the ongoing pandemic from two case reports from Cameroon and Uganda.

Many Cameroonians rely on both biomedicine and ethnomedicine. As an ethnobotany specialist, Dr. Fongnzossie reports the current challenges faced by traditional medicine experts and the potential of contribution by plant-based traditional knowledge against COVID-19.

As the COVID-19 is a serious matter of concern in terms of the national security, it can be a sort of political resource for the state. Mr. Karusigarira, a political scientist, will focus on these aspects and analyze policing strategy by the Uganda government and how it is perceived and translated by citizens.

7.16 Thu.

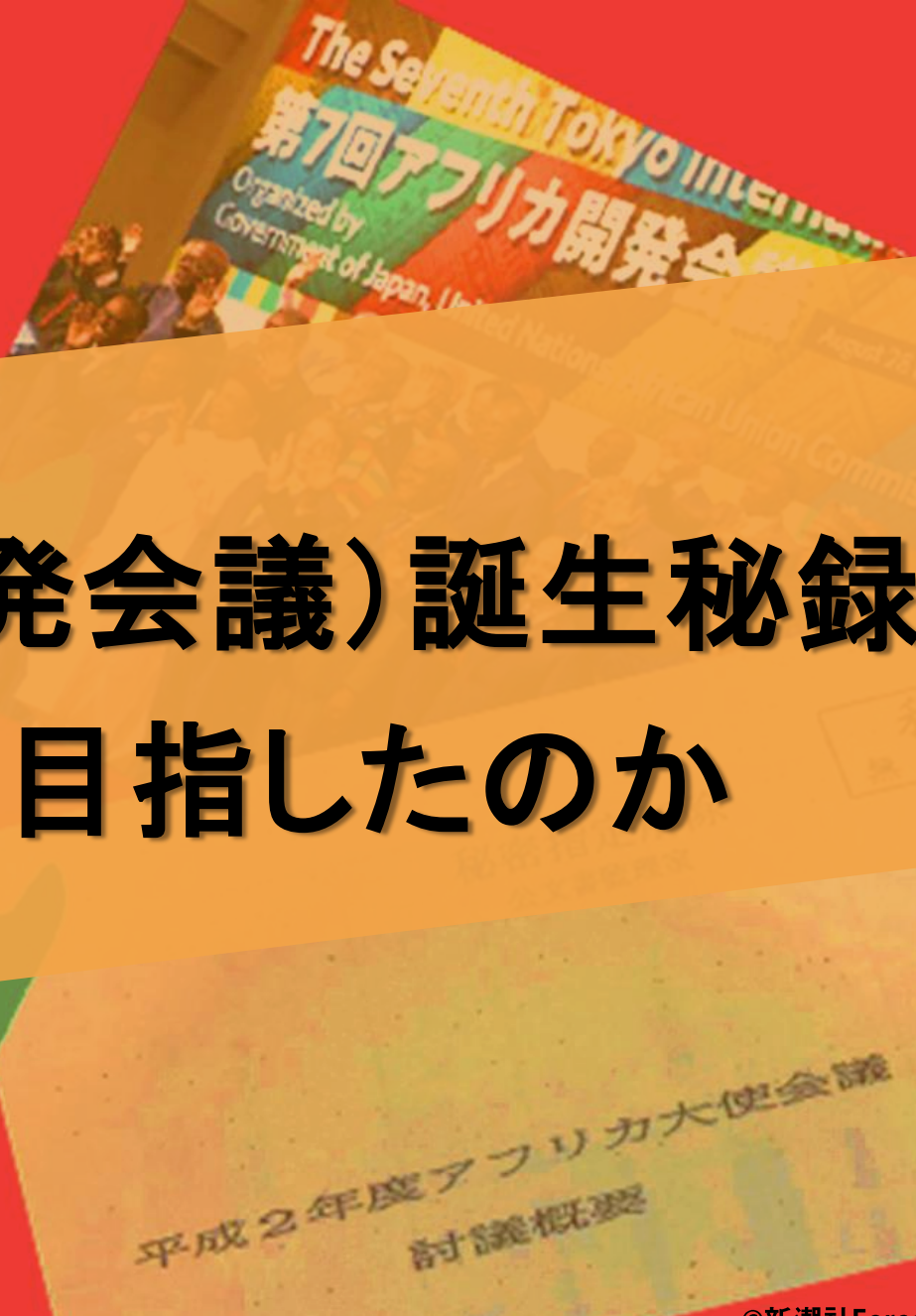
Zoom
17:40
-19:10

- Speaker: Fongnzossie Fedoung Evariste (University of Douala, Cameroon)
  Ian Karusigarira (Tokyo University of Foreign Studies, Japan)
- Date: Thursday July 16, 2020
- Time: 17:40-19:10 (Japan time. GMT+9)
- Venue: Webinar by Zoom
  - Language: English
  - Free of Charge
  - Pre-registration is needed (Deadline of Application: Mon. 13 July)
    https://bit.ly/2NNkYBD
  - Jointly organized by Kanto branch of Japan Association for African Studies

Contact

**African Studies Center –Tokyo University of Foreign Studies**
Address: Room 401E2, Research and Lecture Building, Tokyo University of Foreign Studies 3-11-1, Asahi-cho, Fuchu-shi, Tokyo 183-8534 JAPAN Tel/Fax: +81-42-330-5540 / e-mail: africanstudies-center@tufs.ac.jp

The 52nd ASC Seminar
日本アフリカ学会関東支部 共催




©新潮社Foresight

# TICAD（アフリカ開発会議）誕生秘録
# ～日本外交は何を目指したのか

9月29日(火) 17時40分～19時10分

Zoomウェビナーによるオンライン開催

1993年に始まったTICAD（アフリカ開発会議）については、その開始から四半世紀以上が経過した今なお、明らかになっていないことが多い。歴史的に関係の希薄だったアフリカを対象とした巨大な国際会議が、誰の発案によって、いかなる目的で企画されたのか。「国連安保理の常任理事国入りを目指す日本政府が、国連の大票田であるアフリカの支持を得るため」という“通説”は本当なのか。TICADの立ち上げに関わった外交官OBへのインタビュー、外交文書などの分析を通じて初めて明らかになったTICAD誕生の経緯を報告し、日本の対アフリカ外交の在り方を考える。

**白戸 圭一 教授（立命館大学国際関係学部）**

**日時：2020年9月29日（火）17時40分～19時10分（日本時間）**

**方法：Zoomウェビナーによるオンライン開催**

- **使用言語：日本語**
- **参加費：無料**
- **事前申し込み必要。https://00m.in/KRBWb より登録してください。**
  **9月27日(日)登録〆切。500人の定員に達し次第、受付を終了させていただきます。**

お問い合わせ先

**東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター**

**住所：**〒183-8534 **東京都府中市朝日町** 3-11-1 **研究講義棟** 401E2

TEL＆FAX:042-330-5540/ e-mail:africanstudies-center@tufs.ac.jp

# 第53回ASCセミナー
## 日本アフリカ学会関東支部2020年度第3回例会

# 西アフリカ内陸の近代史
## ―史資料の偏在とパースペクティブ―

現代アフリカ地域研究センターでは、日本アフリカ学会関東支部との共催で第53回ASCセミナーを開催します。講師には、総合地球環境学研究所で西アフリカのイスラーム史を研究する中尾世治博士をお招きします。

西アフリカ内陸では、トピックや地域、時代によって史資料に大きな偏りがあります。このことが近代史研究の制約となり、同時に研究方法を規定するものになっているのです。中尾博士は、この史資料（の偏在）が与える独自のパースペクティブ、さらに新しい歴史人類学のあり方について解説します。

❖講演者：**中尾 世治 博士**
（総合地球環境学研究所・特任助教）

❖コメント：**大石 高典 博士**
（東京外国語大学・准教授）

❖日　時：2020年10月29日（木）
17:40 ～ 19:10

❖場　所：Zoomでのオンライン開催

❖使用言語：日本語

❖参加費：無料

❖参加をご希望の方は、右記QRコード、またはhttp://urx.space/BIFVより事前にお申し込みください。定員：300名。申し込みメ切：10月27日（火）。定員に達ししだい締め切らせていただきます。


**お問い合わせ先**

東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター

住所：〒183-8534　東京都府中市朝日町3-11-1　研究講義棟4F 401E2号室
TEL：042-330-5540　e-mail：africanstudies-center@tufs.ac.jp

The 54th ASC Seminar
The 4th Meeting in 2020 of Kanto Branch of Japan Association for African Studies

# Chinese Peace in Africa

## From Peacekeeper to Peacemaker

African Studies Center - TUFS (ASC-TUFS) will host the 54th ASC Seminar on November 12, 2020. This is jointly organized by Kanto branch of Japan Association for African Studies.

The speaker is Dr. Steven C. Y. Kuo, who specializes in China-Africa relations. He will clarify China's peace policies and activities in Africa, as the country plays an important role as the largest contributor of PKO staff among the permanent members of the UN Security Council.

The seminar will be based on his book of the same title published in August 2019 by Routledge.

❖Speaker: Dr. Steven C.Y. Kuo
(Research Associate, the Gordon Institute of Business Science, University of Pretoria, South Africa)

❖Date & Time: Thursday, November 12, 2020 5:40 - 7:10 pm (JST)

❖Venue: Online (Zoom Meeting)

❖Language: English

❖Admission: Free

❖Pre-registration is required. Please scan the QR code on the right or visit www.tufs.ac.jp/asc/english/news/201112ASCSeminar54pr.html for registration by November 10, 2020. The Application will be closed as soon as the capacity reaches 300.

❖Jointly Organized by African Studies Center - TUFS and Kanto branch of Japan Association for African Studies

CONTACT

**African studies Center – Tokyo University of Foreign Studies**

Address: Room 401E2, Research and Lecture Bldg., Tokyo University of Foreign Studies
3-11-1 Asahicho, Fuchu-shi, Tokyo 183-8534 JAPAN
Tel: +81-42-330-5540 Fax: +81-42-330-5884 e-mail: asc@tufs.ac.jp

第 54 回 ASC セミナー
日本アフリカ学会関東支部 2020 年度
第 4 回例会

# Chinese Peace in Africa

## From Peacekeeper to Peacemaker

現代アフリカ地域研究センターでは、日本アフリカ学会関東支部との共催で第 54 回 ASC セミナーを開催します。講師には、中国・アフリカ関係を専門とする、プレトリア大学のスティーブン・C・Y・クオ博士をお招きします。

アフリカでの中国の平和活動を研究するクオ博士が、国連安保理常任理事国最大の PKO 要員拠出国となった中国のアフリカにおける平和政策と活動の実態についてお話しします。本セミナーは同タイトルの著作（2019 年、Routledge）に沿って進められます。

❖**講演者：スティーブン・C・Y・クオ博士**
（プレトリア大学ゴードン・インスティテュート・オブ・ビジネス・サイエンス・リサーチアソシエイト）
❖**日　時：2020 年 11 月 12 日（木）　17:40 ～ 19:10（JST）**
❖**場　所：Zoom でのオンライン開催**

❖使用言語：英語
❖参加費：無料
❖参加をご希望の方は、右記 QR コード、または本セミナー案内ページ（www.tufs.ac.jp/asc/news/201112ASCSeminar54pr.html）より事前にお申し込みください。定員：300 名。申し込み〆切：11 月 10 日（火）。定員に達ししだい締め切らせていただきます。
❖共催：日本アフリカ学会関東支部


お問い合わせ先
東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター
住所：〒183-8534　東京都府中市朝日町 3-11-1　研究講義棟 4F 401E2 号室
TEL：042-330-5540　FAX：042-330-5884　e-mail：asc@tufs.ac.jp

第 55 回 ASC セミナー／日本アフリカ学会関東支部 2020 年度第 5 回例会

# ウガンダモデルを再考する

## 南スーダン難民受け入れの現状と課題

現代アフリカ地域研究センターでは、日本アフリカ学会関東支部との共催で第 55 回 ASC セミナーを開催します。

アフリカで最大規模の難民を受け入れているウガンダ。「ウガンダモデル」と呼ばれる難民対応は高く評価される一方、受け入れ地域の社会や経済にさまざまな変化が生じています。本セミナーでは、当センターの特任研究員、村橋勲博士が、難民の生計や、難民と難民受け入れ地域の住民（ホスト住民）との関係から、「ウガンダモデル」の現状と課題を考えます。

❖**講 演 者：村橋 勲 博士**
（東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター・特任研究員）

❖**コメント：中山 裕美 博士**
（東京外国語大学大学院総合国際学研究院・准教授）

❖**日　　時：2020 年 11 月 27 日（金） 17:40 ～ 19:10（JST）**

❖**場　所：Zoom でのオンライン開催**

❖使用言語：日本語

❖参加費：無料

❖参加をご希望の方は、右記 QR コード、または本セミナー案内ページ（www.tufs.ac.jp/asc/news/201127ASCSeminar55pr.html）より事前にお申し込みください。定員：300 名。申し込み〆切：11 月 25 日（水）。定員に達ししだい締め切らせていただきます。

❖共催：日本アフリカ学会関東支部

African Studies Center
Tokyo University of Foreign Studies

東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター

住所：〒183-8534　東京都府中市朝日町 3-11-1　研究講義棟 4F 401E2 号室
TEL：042-330-5540　FAX：042-330-5884　e-mail：asc@tufs.ac.jp

第 56 回 ASC セミナー／日本アフリカ学会関東支部 2020 年度第 6 回例会

# 憑依による妖術師の変容

## ベナン南部のペンテコステ・カリスマ系教会におけるデリヴァランス儀礼を通して

現代アフリカ地域研究センターでは日本アフリカ学会関東支部との共催で第 56 回 ASC セミナーを開催します。スピーカーは当センターの村津蘭特任研究員です。

ペンテコステ・カリスマ系教会が強調する実践のひとつ、デリヴァランス。本セミナーでは、従来は憑依する存在でなかったにも関わらず、この儀礼を通して憑依するようになった「妖術師」に焦点を当てます。そして「妖術師の憑依」によって「妖術師」のあり方や、社会関係、霊的存在との関係がどのように変容したのかを論じます。

❖**講演者：村津 蘭 氏**
（東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター・特任研究員）

❖**日　時：2021 年 1 月 8 日（金）17:40 ～ 19:10（JST）**

❖**場　所：Zoom でのオンライン開催**

❖使用言語：日本語

❖参加費：無料

❖参加をご希望の方は、右記 QR コード、または本セミナー案内ページ（www.tufs.ac.jp/asc/news/210108ASCSeminar56.html）より事前にお申し込みください。定員：300 名。申し込み〆切：2021 年 1 月 6 日（水）。定員に達ししだい締め切らせていただきます。

❖共催：日本アフリカ学会関東支部

African Studies Center
Tokyo University of Foreign Studies

**東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター**

住所：〒183-8534　東京都府中市朝日町 3-11-1　研究講義棟 4F 401E2 号室
TEL：042-330-5540　FAX：042-330-5884　e-mail：asc@tufs.ac.jp

第 57 回 ASC セミナー／日本アフリカ学会関東支部 2020 年度第 7 回例会

現代アフリカ地域研究センターでは日本アフリカ学会関東支部との共催で第 57 回 ASC セミナーを開催します。スピーカーは明治大学の榎本珠良特任教授です。

新型コロナウイルス感染症拡大と BLM 運動を契機に、開発・人道支援に潜む人種主義や差別に向き合おうとする議論、援助の「現地化」や「脱植民地化」を求める動きが広まりつつあります。本セミナーでは、開発・人道支援と政策領域やアクターが重複している「人道的軍備管理」分野において人種主義的な政策や行為を可能にしてきた構造や制度を分析します。

# 「人道的軍備管理」における人種主義

## Black Lives Matter 運動後の開発・人道支援と軍備管理

©UN Photo/Martine Perret

日時： 2021

**2/18 木**

17:40 ～ 19:10 (JST)

講演者：

**榎本 珠良 氏**

明治大学研究･知財戦略機構
特任教授

❖場　所：Zoom でのオンライン開催
❖使用言語：日本語
❖参加費：無料
❖参加をご希望の方は、上記 QR コード、または本セミナー案内ページ（www.tufs.ac.jp/asc/news/210218ASCSeminar57.html）より事前にお申し込みください。定員：300 名。申し込み〆切：2021 年 2 月 16 日（火）。定員に達ししだい締め切らせていただきます。

African Studies Center
Tokyo University of Foreign Studies

東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター

住所：〒183-8534　東京都府中市朝日町 3-11-1　研究講義棟 4F 401E2 号室
TEL：042-330-5540　FAX：042-330-5884　e-mail：asc@tufs.ac.jp

第 58 回 ASC セミナー／日本アフリカ学会関東支部 2020 年度第 8 回例会

# アフリカにおける教育と言語
## 主にタンザニアの事例から

現代アフリカ地域研究センターでは日本アフリカ学会関東支部との共催で第 58 回 ASC セミナーを開催します。スピーカーには、アフリカ諸国の言語政策と多言語主義をテーマにタンザニアで研究されている沓掛沙弥香氏をお迎えし、熊本県立大学の砂野幸稔名誉教授にコメンテーターとしてご参加いただきます。

本セミナーでは、タンザニアにおける調査データを基に、現代アフリカにおいて教育言語の選択が難しい問題であり続けている理由を考察します。

**日時：2021 3/2（火） 17:40 ～ 19:10 (JST)**

**講演者：沓掛 沙弥香 氏**
日本学術振興会・特別研究員 PD／東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・共同研究員

**コメンテーター：砂野 幸稔 氏**
熊本県立大学 名誉教授

❖場　所：Zoom でのオンライン開催
❖使用言語：日本語
❖参加費：無料
❖参加をご希望の方は、右の QR コード、または本セミナー案内ページ（www.tufs.ac.jp/asc/news/210302ASCSeminar58.html）より事前にお申し込みください。定員：300 名。申し込み〆切：2021 年 2 月 28 日（日）。定員に達ししだい締め切らせていただきます。

African Studies Center
Tokyo University of Foreign Studies

東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター

住所：〒183-8534　東京都府中市朝日町 3-11-1　研究講義棟 4F 401E2 号室
TEL：042-330-5540　FAX：042-330-5884　e-mail：asc@tufs.ac.jp

連続セミナー

# Black Lives Matter 運動から学ぶこと

## —多文化共生、サステイナビリティについて考えるために—

5月に米国で起こった事件を契機として始まったBlack Lives Matter運動の広がりは、世界中で、これまで「他者」の問題だったものを、たちまち「私たち」の問題として浮き上がらせている。
本連続セミナーでは、このBLM運動を多角的な視点から考察するとともに、日本を含む世界の諸地域における、エスニシティ、ナショナリズム、植民地主義、差別、移民、同化、ジェノサイド等々、幅広い領域に関わる論点と接合させることで、この運動が、今ここに生きる「私たち」に問いかける「多文化共生とは何か」、「サステイナビリティとは何か」といった課題をともに考えていく。

第1回

# 1st アメリカ研究から見たBLM運動

# 「アメリカの黒人」とは

## —文学を通して考える

講演

荒 このみ 先生

Profile

アメリカ文学・文化研究。博士（文学）。東京外国語大学名誉教授。
著書に『マルコムX　人権への闘い』（岩波新書 2009年）、『歌姫あるいは闘士——ジョセフィン・ベイカー』（講談社 2007年）、『黒人のアメリカ』（ちくま新書　1997年）など。訳書にトニ・モリスン著『「他者」の起源』（集英社新書 2019年）、マーガレット・ミッチェル著『風と共に去りぬ』（岩波文庫 全6巻 2015ー16年）など。

## 2020年10月21日（水）17:40〜19:40
## Zoomウェビナーでのオンライン開催

- 使用言語：日本語
- 参加費：無料
- 事前申し込みが必要です。（定員500名。本学学生優先。先着受付順。定員に達した場合参加をお断りさせていただくことがございます。）
- 参加ご希望の方は、10月14日（水）までに、以下のQRコードを読み取り、参加登録フォームより事前登録をお願いいたします。
  本学ホームページからも登録できます。
  URL: http://www.tufs.ac.jp/event/2020/201002_2.html
- 問い合わせ先：BLM-seminar@tufs.ac.jp（連続セミナー担当）

共催：**東京外国語大学**
多文化共生研究創生 WG、総合文化研究所

### ▶今後開催予定テーマ

・運動論から考えるBLM　・グローバリゼーション、アフリカ、BLM
・『差別を支えてきたもの』はなにか　・格差と没落　ほか

連続セミナー

# Black Lives Matter 運動から学ぶこと

## —多文化共生、サステイナビリティについて考えるために—

アフリカ系アメリカ人に対する警官の暴力への抗議活動として始まったBLMの呼びかけは、2020年5月のジョージ・フロイドさん殺害事件をきっかけとして、様々な運動と共鳴しながら瞬く間に世界に広がりました。今回のセミナーでは、東京外国語大学の二人の研究者が、BLMとの共鳴を引き起こした現代世界の状況を運動論の観点から考えます。

BLACK LIVES MATTER

## 第2回 2nd 運動論から考えるBLM

司会：武内 進一（現代アフリカ地域研究センター）

「BLMの文化交差性と日系移民史」

友常 勉（大学院国際日本学研究院教授）

日本思想史、近現代部落史

「民主主義とネクロポリティクス」

岩崎 稔（大学院総合国際学研究院教授）

西洋哲学、西洋思想史

**2020年11月25日（水）17:40〜19:10**
**Zoomウェビナーでのオンライン開催**

- 使用言語：日本語
- 参加費：無料
- 事前申し込みが必要です。（本学学生優先。先着受付順。定員に達した場合参加をお断りさせていただくことがございます。）
- 参加ご希望の方は、11月20日（金）正午までに、以下のQRコードを読み取り、参加登録フォームより事前登録をお願いいたします。
  本学ホームページからも登録できます。
  http://www.tufs.ac.jp/event/2020/201023_1.html
- 問い合わせ先：BLM-seminar@tufs.ac.jp（連続セミナー担当）

共催：**東京外国語大学**
多文化共生研究創生WG、海外事情研究所、国際日本研究センター

### ▶今後開催予定テーマ

- ■ 12月23日（水）：社会の中の分断と融和
- ■ 1月20日（水）：『差別を支えてきたもの』はなにか
- ■ 2月10日（水）：グローバリゼーション、アフリカ、ＢＬＭ　ほか

# 連続セミナー「Black Lives Matter 運動から学ぶこと
## ―多文化共生、サステイナビリティについて考えるために―」

https://ja.crimethinc.com/

5月に米国で起こった事件を契機として始まったBlack Lives Matter 運動の広がりは、世界中で、これまで「他者」の問題だったものを、たちまち「私たち」の問題として浮き上がらせている。

本連続セミナーでは、このBLM運動を多角的な視点から考察するとともに、日本を含む世界の諸地域における、エスニシティ、ナショナリズム、植民地主義、差別、移民、同化、ジェノサイド等々、幅広い領域に関わる論点と接合させることで、この運動が、今ここに生きる「私たち」に問いかける「多文化共生とは何か」、「サステイナビリティとは何か」といった課題をともに考えていく。

## 2nd 第2回〈連続セミナー〉 運動論から考えるBLM

**運動としてのブラック・ライブズ・マターは、2013年7月に始まった。黒人少年を射殺した加害者の無罪判決に対して、「黒人の命は大切」とメッセージを示し、ハッシュタグをつけ、フェイスブックのコミュニティに載せた三人の若い黒人女性の試みが共感を呼び、現実のアクションにつながったからだ。その手法はすでに2016年頃には評価されていたが、一挙に盛り上がったのは2020年5月、ジョージ・フロイド殺害の事件をきっかけにである。とはいえ、問題は黒人差別だけではない。コロナショック2020年の世界を見渡せば、タイやベラルーシ、香港などの市民や若者たち、＃Me tooやフラワーデモの女性たちなど、各地で声を上げる人びとがあらわれ、日本社会にも大きなうねりが生じ始めている。ひとは誰しも、みずからの尊厳をおびやかす力に抗わなければならない、否、「いやだ」と言っていいのである。具体的な事例も視野に入れ、運動をめぐる考え方や構造を掘り下げて論じていく。**

Profile

### 岩崎　稔（大学院総合国際学研究院教授）

専門は西洋哲学、西洋思想史。著書、論文として、『アジアの戦争と記憶―20世紀の歴史と文学』（共編著、勉誠出版、2018年）、『立ちすくむ歴史――E.H.カー『歴史とは何か』から50年』（共著、せりか書房、2012年）、「『現代の価値観で過去を裁くな』論のおかしさ：ＢＬＭ運動の『銅像破壊』を巡って」＜https://gendai.ismedia.jp/articles/-/75419＞（『現代ビジネス』2020年9月6日号）、などがある。

Profile

### 友常　勉（大学院国際日本学研究院教授）

専門は日本思想史、近現代部落史。著書、論文として、『夢と爆弾―サバルタンの表現と闘争』（航思社、2019年）、『戦後部落解放運動史―永続革命の行方』（河出書房新社、2012年）、「アメリカ黒人暴動史」『ブラック・ライブズ・マター：黒人たちの叛乱は何を問うのか』（河出書房新社、2020年、pp.72- 80）、などがある。

■ **第3回セミナー「社会の中の分断と融和」は12月23日（水）に開催します。**

本学と神戸市外国語大学との合同セミナーです。こちらも是非ご参加ください！

共催：**東京外国語大学** 多文化共生研究創生 WG、海外事情研究所、国際日本研究センター

連続セミナー

# Black Lives Matter 運動から学ぶこと

—多文化共生、サステイナビリティについて考えるために—

今回のセミナーは、米国、フランス、そして日本において、かつては少なくとも被支配層や経済的弱者ではなかったはずの人々が差別や暴力へと追い立てられる経済的背景について考え、社会の分断から融和へとつながる道を探る。

BLACK LIVES MATTER

## 第3回 3rd 社会の中の分断と融和

東京外国語大学・神戸市外国語大学
第9回　大学院合同セミナー

## 「反人種主義のフランス思想ーエティエンヌ・バリバール」

太田 悠介（神戸市外国語大学総合文化コース准教授）

## 「格差と没落ー抑圧者の恐怖心」

出町 一恵（東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授）

**2020年12月23日(水)17:40～19:40**
**Zoomウェビナーでのオンライン開催**

- 使用言語：日本語
- 参加費：無料
- 事前申し込みが必要です。(東京外国語大学・神戸市外国語大学の大学院合同セミナー第9回の第2部として開催されます。両大学の在学学生優先。先着受付順)
- 参加ご希望の方は、12月18日(金)正午(日本時間)までに、以下のQRコードを読み取り、参加登録フォームより事前登録をお願いいたします。
  ホームページからも登録できます。

http://www.tufs.ac.jp/event/2020/201118_2.html

- 問い合わせ先：BLM-seminar@tufs.ac.jp (連続セミナー担当)

共催：
神戸市外国語大学大学院外国語学研究科、東京外国語大学多文化共生研究創生WG、大学院総合国際学研究科、現代アフリカ地域研究センター、海外事情研究所、国際日本研究センター

▶ 今後開催予定テーマ

■ 1月20日(水)：「差別を支えてきたもの」はなにか
■ 2月10日(水)：グローバリゼーション、アフリカ、BLM　ほか

## 第1部

# 東京外国語大学・神戸市外国語大学 第9回大学院合同セミナー

**神戸市外国語大学および東京外国語大学の教員、在学学生限定**

# ヤング・スカラーズ・セッション

**12月23日(水)16:00～17:30　Zoomウェビナーでのオンライン開催**

- 使用言語：日本語、英語
- 参加費：無料
- 事前申し込みが必要です。
  参加を希望する両大学関係者は、12月18日(金)正午(日本時間)までに、上記QRコードを読み取り、参加登録フォームより事前登録をお願いいたします。第2部の登録も可能です。
- ホームページからも登録できます。

URL: http://www.tufs.ac.jp/event/2020/201118_1.html

■ 報告

小谷 七生 (神戸市外国語大学、博士後期課程大学院生)
「蟻の街」の貧困と女性－1950年代のメディア表象を手掛かりに

Carlo Stranges (Tokyo University of Foreign Studies, Doctor-Course student)
"Next Time and Now : an analysis of James Baldwin's resurgence in the Black Lives Matter era" (英語報告)

■ 司会　中山 智香子 (東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授)

■ コメンテータ　逆井 聡人 (東京外国語大学世界言語社会教育センター講師)
Matthew Theado (神戸市外国語大学外国語学部教授)(英語によるコメント)

## 第9回 大学院合同セミナー
## BLM連続セミナー 第3回

# 社会の中の分断と融和

## 第2部

**一般公開**

かつての奴隷制、強制労働や植民地主義を経て成立した国々の社会には、現在もその歴史と影響が残っている。米国での黒人への差別と同様に、フランスやイギリスをはじめとしたヨーロッパの国々でも、主に旧植民地の国々にルーツを持つ人々や移民への差別が残る。奴隷貿易や植民地経営はグローバル経済としての営みであった。BLM運動に顕れた社会の中の分断も、資本主義経済の進展の帰結と捉えることができる。本セミナーでは、米国、フランス、そして日本において、かつては少なくとも被支配層や経済的弱者ではなかったはずの人々が差別や暴力へと追い立てられる経済的背景について考える。また、広がりつつあるように見える社会の分断から融和へとつながる道を探るべく、反人種主義をめぐる思想的な考察についても深める機会としたい。

**12月23日(水)17:40～19:40　Zoomウェビナーでのオンライン開催**

■ プロフィール

### 出町 一恵
(東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授／現代アフリカ地域研究センター)

専門は国際経済学、金融論、開発経済論。サハラ以南アフリカやアジアの低開発国のマクロ経済、特に金融や債務の問題などをテーマに研究している。今年は新型コロナの影響で留学を中断したり帰省をとりやめたりした学生たちと、Thomas Piketty の *Capital and Ideology* (2020) や David Graeber の *Debt* (2011) を輪読した。

### 太田 悠介
(神戸市外国語大学　総合文化コース准教授)

専門は思想史、フランス思想。現代フランスの思想家エティエンヌ・バリバールを中心として、20世紀後半以降に現れた政治と共同性をめぐる思想を研究している。近年はポスト植民地時代の移民社会という現代フランスの課題を視野に入れて、思想と社会のはざまで考察を進めている。主な業績として共訳書『フランスというつぼ』(2015)、『民主主義の発明』(2017)など。

■ 共催
神戸市外国語大学大学院外国語学研究科、東京外国語大学多文化共生研究創生WG、大学院総合国際学研究科、現代アフリカ地域研究センター、海外事情研究所、国際日本研究センター

---

African Weeks 2020
東京外国語大学

# 「Jafrica～君と私とアフリカ～」

(2020年11月30日～12月18日開催)

東京外大アフリカ地域専攻の学生が主体になり開催されるイベント、アフリカンウィークス。
アフリカと日本を主なテーマに、「共生」について今こそ考えてみませんか？

http://www.tufs.ac.jp/asc/news/AW2020.html

連続セミナー

# Black Lives Matter 運動から学ぶこと

―多文化共生、サステイナビリティについて考えるために―

## 第4回 4th 『差別を支えてきたもの』はなにか

今回のセミナーは、差別に反対する活動にかかわる学生たちとともに、差別の視線を向ける側である主流社会の問題―「われわれ」の日常生活に潜む「みえない/みえにくい」差別―を考えていく試みである。

中山裕美
(大学院総合国際学研究院准教授)

山内由理子
(大学院総合国際学研究院准教授)

## 「みえない/みえにくい」差別 ―学生と共に考える―

×司会 武内進一
(現代アフリカ地域研究センター)







**2021年1月20日(水) 17:40～19:10**
**Zoomでのオンライン開催**

- 使用言語:日本語
- 参加費:無料
- 事前申し込みが必要です。(本学学生優先。先着受付順)
- 問い合わせ先:BLM-seminar@tufs.ac.jp (連続セミナー担当)

- 参加ご希望の方は、1月15日(金)正午(日本時間)までに、以下のQRコードを読み取り、参加登録フォームより事前登録をお願いいたします。

ホームページからも登録できます。
URL: http://www.tufs.ac.jp/event/2020/201214_1.html

共催:東京外国語大学多文化共生研究創生WG、海外事情研究所、現代アフリカ地域研究センター　協力:みんながおキッチン、Moving Beyond Hate

▶ 今後開催予定テーマ　■ 2月10日(水):グローバリゼーション、アフリカ、BLM　ほか

# BLM連続セミナー 第4回
# 『差別を支えてきたもの』はなにか

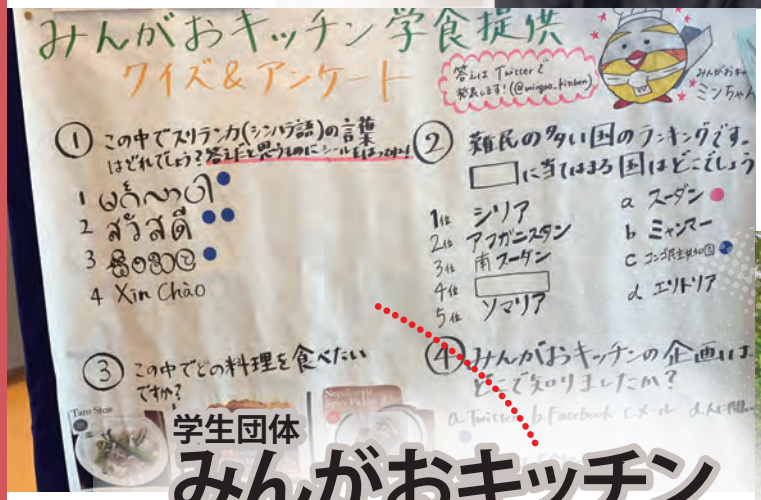
今日の世界では、「差別」は「いけないこと」であるという了解が存在し、差別を禁止する様々な取り決めが存在している。これは、差別により引き起こされた様々な悲劇を繰り返さないようにという国際的・国内的取り組みの成果であったはずだ。しかし、アメリカに始まり世界中に広がったBLM運動が浮き彫りにしたのは、そうした取り決めにもかかわらず、マイノリティへの差別のまなざしは存在し続けているということであった。
本セミナーでは、このような問題の根幹には『差別を支えてきたもの』が私たちの日常に潜んでいるという現実に目を向ける。そして、差別の対象となる人々への支援に携わっている学生団体のメンバーとともに、いとも簡単に社会の分断を招いてしまうにもかかわらず、往々にして「見えない/見えにくい」『差別を支えてきたもの』と、どのように向き合っていけば良いのかを考える機会としたい。

## 山内由理子

専門は文化人類学、オーストラリア先住民研究。オーストラリア先住民の研究を進めてゆく中で、マイノリティの立場に立たされること、の意味を考えるようになった。現在はオーストラリア先住民と日本人移民のミックスの人々の研究に携わりつつ、植民地主義・和解・責任などの問題に関し考えを進めている。

## 中山裕美

専門は国際政治学、国際制度論、移民難民研究。幼い頃に「ルワンダの虐殺」に関するドキュメンタリーを視聴したときに受けた衝撃が、難民問題に関心を持つきっかけになった。現在は難民や移民を取り巻く国際社会の対立と協調をテーマに、人の移動によって生じる問題を幅広く研究している。




## 学生団体 みんがおキッチン

みんなの笑顔×ミンガラーバー(ビルマ語で"こんにちは")。食で始まる難民との出会いからみんなの笑顔を生みたい、そんな思いを込めた団体名のもとで、「食」という身近なものを通して日本に暮らす難民について知ってもらうことをめざす学生団体。学食での「難民の故郷の味」提供や、自主的な学習会を企画・開催している。

Moving Beyond Hateは、日本そして世界から 人種／民族・障がいなどに基づくあらゆる差別をなくすために、新しい反差別運動をつくっています。１０～２０代の若い世代を中心に、差別にNOと言わない空気を突き破り、日本や世界からあらゆる差別の根絶をめざす学生団体です。

## 学生団体 Moving Beyond Hate

共催：東京外国語大学多文化共生研究創生WG、海外事情研究所、現代アフリカ地域研究センター
協力：みんがおキッチン、Moving Beyond Hate

**※ 第５回セミナー「グローバリゼーション、アフリカ、ＢＬＭ」は2月10日（水）に開催します。**

連続セミナー

# Black Lives Matter 運動から学ぶこと

―多文化共生、サステイナビリティについて考えるために―

## 第5回 5th アフリカ・グローバリゼーション・BLM

今回のセミナーは、第一期の締めとして、セミナー企画者であるサステイナビリティ研究の担当者２名がアフリカとグローバリゼーションの観点からＢＬＭを考察する。

### アフリカ研究者がBLMから学んだこと

**武内 進一**
（現代アフリカ地域研究センター/大学院総合国際学研究院教授）

### 世界システムとBLM：極東からグローバルサウスを考える

**中山 智香子**
（大学院総合国際学研究院教授）

## 2021年2月10日（水）17:40～19:40
## Zoomウェビナーでのオンライン開催

- 使用言語：日本語
- 参加費：無料
- 事前申し込みが必要です。（本学学生優先。先着受付順）
- 参加ご希望の方は、2月5日（金）正午（日本時間）までに、右のQRコードを読み取り、参加登録フォームより事前登録をお願いいたします。

ホームページからも登録できます。
http://www.tufs.ac.jp/event/2020/210114_1.html

- 問い合わせ先：BLM-seminar@tufs.ac.jp（連続セミナー担当）

共催：東京外国語大学多文化共生研究創生WG、
現代アフリカ地域研究センター、
海外事情研究所

▶ 今後開催予定テーマ

■ 現代アメリカ文学と芸術におけるBLM
■ BLMの新しい地平　―機会均等に向けて
■ BLMの可能性：人種とジェンダーの視点から　ほか

## BLM連続セミナー 第5回

# アフリカ・グローバリゼーション・BLM

**「アメリカの黒人」という言葉が特殊な意味をもつように、黒人問題はアフリカとアメリカで異なる位相をもつ。だが近代以降のグローバル世界で奴隷制と資本主義が進展し、科学的普遍主義を携えた西洋的意識が、「黒」や「有色」を貶めてきた歴史は厳然と存在する。連続セミナー第5回は、第一期の締めとして、セミナー企画者であるサステイナビリティ研究の担当者２名がアフリカとグローバリゼーションの観点からBLMを考察する。**


## 中山 智香子

（大学院総合国際学研究院教授）

専門はグローバルスタディーズ（現代経済思想、社会思想）。カール・ポランニーの経済人類学的視点などを援用し、グローバル世界を「周辺」と「サステイナビリティ」の観点から研究。著書に『経済学の堕落を撃つ：「自由」vs「正義」の経済思想史』（講談社現代新書、2019年）など。BLMの潜勢力は現代世界の一縷の希望ととらえている。

## 武内 進一

（現代アフリカ地域研究センター/大学院総合国際学研究院教授）

専門はアフリカ研究。ルワンダやコンゴ民主共和国を中心に政治、紛争、土地問題などを研究。著書に『現代アフリカの紛争と国家―ポストコロニアル家産制国家とルワンダ・ジェノサイド』（明石書店、2009年）など。BLMセミナーを通じて、「アメリカの黒人」とアフリカとの関係の複雑さに目を開かされた。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

共催：東京外国語大学多文化共生研究創生WG、現代アフリカ地域研究センター、海外事情研究所

《今後開催予定テーマ》

■ 現代アメリカ文学と芸術におけるBLM　■ BLMの新しい地平　―機会均等に向けて　■ BLMの可能性：人種とジェンダーの視点から ほか

## 映画上映
「バベルの学校」
⚠事前申し込み・先着順⚠

フランスに移住した24人20国籍の子どもたちが集う、世界の縮図のようなクラス。無邪気さ、熱意、悩みとともにあらゆる境を越えてはぐくむ友情の一年間を追った感動のドキュメンタリー。
上映後のディスカッションもぜひ!
日時：12月5日(土)　12:30~
開催場所：オンライン(zoom)

## 写真展
『日本で見つけたアフリカ』
『アフリカで見つけた日本』

皆さまから募集した、アフリカと日本のつながりを感じられる写真をご紹介します。身の回りのアフリカから新たな発見があるかも!
場所：ホームページ

## トークライブ
⚠事前申し込み・先着順⚠

「恋する文化人類学者」の著者、鈴木裕之さんとニャマさんご夫婦による講演です。
コートジボワールで出会い、いま日本で暮らすお二人から見た「共生」を語っていただきます。
日時：12月11日(金)
18:00~
開催場所：オンライン(zoom)

# African Weeks 2020
# アフリカンウィークス2020
# Jafrica
# ～君と私とアフリカ～

2020.11.30~12.18

アフリカンウィークスは、
東京外国語大学アフリカ地域専攻の学生が、
アフリカにあまりなじみのない方たちにアフリカの
様々な魅力や課題を発信する企画です。
今回は「共生」をテーマにアフリカと日本の関わりを
考えます。人種差別問題や排他的な言動への関心
が世界中で高まっている今日、「共に生きる」ことに
ついて一緒に考えませんか?

## トークセッション
with African Youth Meetup
⚠事前申し込み・先着順⚠

私たちと一緒に視聴者の皆さんもお話ししましょう!
スペシャルゲストは、様々な形でアフリカに関わる人々のネットワーク団体「NPO法人アフリカ日本協議会(AJF)」さんの活動の一つであり、アフリカにルーツを持つ中高生や若者のコミュニティ、African Youth Meetupさんです。
日時：12月5日(土)
15:00~16:30
開催場所：オンライン(zoom)

【事前申込制&先着順のイベントについて】
映画上映・トークライブ・トークセッションは事前のお申し込みをお願いします。特に、映画とトークセッションは内容が繋がっているのでぜひ両方ともご参加ください!
公式HP、Twitter、Instagram(右下のQRコード参照)に掲載しているGoogleフォームのリンクからお申込み下さい。
映画とトークセッションの申込締め切りは12月2日、
トークライブの申込締め切りは12月9日です。

## 展示

アフリカについて、特に日本との関係や今注目のトピックなどいろいろな面白い視点からまとめたポスターをオンラインで公開します。
お気軽にのぞきに来てください!

## 文化紹介

アフリカと聞いて、あなたは何を思い浮かべますか?
まだまだ知られていないアフリカについて、インタビュー記事など魅力たっぷりの情報を各種SNS・ホームページでお届けします!

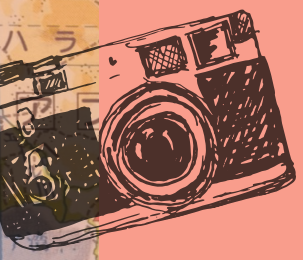
公式HPはこちら⇓

Twitter　Instagram

主催：2020年度アフリカンウィークス実行委員会
共催：東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター
また、当企画にあたって、TUFS多文化共生活動助成事業から助成を受けました。

# アフリカンウィークス
# 写真展募集のお知らせ

アフリカンウィークス2020のイベントの一環として写真展を開催します！
今年のテーマは、



## 「日本で見つけたアフリカ、アフリカで見つけた日本」

今年のアフリカンウィークスは「共生」について考えるイベントです。
皆さんもぜひ、身の回りにある日本やアフリカを探しに行ってみませんか？

**募集要件：特になし。1人3作品まで**
**募集期間：2020年10月20日～11月15日**
**応募方法：メールにて送信**

応募方法等、詳しくはアフリカンウィークス
ホームページの資料をご覧ください。
皆さんのご応募をお待ちしています！！

HP:https://africanweeks2020.wixsite.com/jafrica

主催：2020年度アフリカンウィークス実行委員会
共催：東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター
　　国際社会学部大石ゼミ

ホームページ・各種SNS
更新中です！

Twitter

Instagram

# Call for Entries to the 4th TUFS African Photo Contest

African Weeks 2020 Committee will hold the 4th TUFS African Photo Contest as a part of the event "African Weeks 2020". The theme of the contest is:

## “Africa Found in Japan, Japan Found in Africa”

During African Weeks 2020, we will contemplate about “coexistence” . Why don’ t you look for “Africa” or “Japan” around you?

**Entry Condition: Anyone can apply**
**Application Period: Oct. 20, 2020 - Nov. 15, 2020**
**How to Entry: Send your photo(s) by email**

Please visit the website of African Studies Center - TUFS for further information. The Committee looks forward to your entry!

African Weeks 2020 website (in Japanese only):
https://africanweeks2020.wixsite.com/jafrica

African Weeks 2020 is jointly organized with African Weeks 2020 Committee, African Studies Center - TUFS, and Oishi Seminar of School of International and Area Studies.

「アフリカンウィークス2020」では、
鈴木裕之さん、ニャマさんご夫婦をお招きして
オンライントークライブを開催します。
鈴木さんご夫婦は、コートジボワールで出会われ、現在は日本で暮らしています。本講演では、お二人の視点から、「共生」についてのお話のほか、ニャマさんによるダンスの披露など盛りだくさんな内容となっています。
ぜひご参加ください!

文化人類学者
# 鈴木裕之
〈国士舘大学〉

グリオ歌手
# ニャマ・カンテ

東京外国語大学アフリカンウィークス2020企画

# オンライントークライブ

日時：2020年12月11日(金) 18:00~19:30
開催方法：オンライン(zoom)
参加費：無料
事前申し込みが必要です（先着300名）
URLよりフォームをご記入ください
HPからも登録できます
https://africanweeks2020.wixsite.com/jafrica
主催：アフリカンウィークス2020実行委員会
共催：現代アフリカ地域研究センター
お問い合わせ：アフリカンウィークス2020実行委員会
(africanweeks.2020.tufs@gmail.com)

12.11
FRI.

日時：2020年12月11日(金) 18:00~19:30
開催方法：オンライン(zoom)
参加費：無料
事前申し込みが必要です（先着300名）URLよりフォームをご記入ください→
HPからも登録できます
https://africanweeks2020.wixsite.com/jafrica

12.11
FRI.

東京外国語大学アフリカンウィークス２０２０企画

# オンライントークライブ

主催：アフリカンウィークス2020実行委員会
共催：現代アフリカ地域研究センター
お問い合わせ：アフリカンウィークス2020実行委員会
(africanweeks.2020.tufs@gmail.com)